

〔特別栽培農産物の品目および新作型の開発〕
ズッキーニ、ピーマンおよびラッカセイの特別栽培

海保富士男・荒木俊光・野口 貴
(園芸技術科)

【要 約】ズッキーニおよびピーマンの農薬，化学肥料の使用を5割以下に削減した特別栽培では，トンネル早熟の作型で慣行栽培と同程度の収量が得られる。

【目 的】

昨年まで，ズッキーニおよびピーマンのトンネル早熟栽培による特別栽培が慣行栽培と同程度の収量を得られることを明らかにしたが，本年度は再確認する。また，20年度追加品目となったラッカセイについて，マルチおよび露地栽培の作型で実証栽培を行う。

【試験方法】

- 1) ズッキーニは品種「ブラクトスカ」，ピーマンは「京ゆたか」を供試し，4月22日に条間150cm，株間80cmおよび50cmで定植し，5月18日までタフベル(＃4000N)によるトンネル被覆を行った。慣行区は，ベストガード粒剤を株あたり2g植穴に施用した。
- 2) ラッカセイは「半立性の中粒種」を供試し，4月28日，5月19日および6月4日にベツト幅70cm，株間30cmの2条千鳥で2粒ずつ播種し，各区とも半分を1本立ちとした。4月28日，5月19日播種では，黒マルチを使用し，7月9日にマルチを除去した。
- 3) 東京都特別栽培農産物認証要領別表のとおり節減対象農薬および化学肥料の使用量を5割以下に削減した区(特裁A)，栽培期間中不使用の区(特裁B)を設けた。

【成果の概要】

- 1) ズッキーニについては，平均1果重がいずれの区も160～180g前後であった。上物果の収穫本数および重量は，特裁Aで慣行に比べやや多く，これに対し特裁Bで少なかった。下物果の発生には処理区間にほとんど差がなかった(図1，表1)。
- 2) ピーマンについては，平均1果重は，いずれの処理区も30g前後であった。上物果の収量は，特裁Aは慣行とほぼ同程度であったが，特裁Bで1kg少なかった。下物果の発生には処理区間にほとんど差がなかった(図2，表2)。
- 3) ラッカセイについては，莢および子実収量とも，慣行，特裁B，特裁Aの順であった。剥実歩合および上実百粒重に処理区間にほとんど差がないことから，収量の違いは収穫莢数の差によるものであった。また，播種日が早いほど収量が多くなる傾向があり，株立ち本数の違いによる差はほとんどなかった(表3)。
- 4) 病害虫の発生については，ズッキーニではアブラムシとうどんこ病，ピーマンでは果実にオオタバコガの食害が発生したが，処理区間に被害程度の差はなかった(表2)。また，ラッカセイ収穫後の圃場にコガネムシの幼虫が多数みられ，次年度以降の作物への影響については更に，検討が必要である。
- 5) 以上の結果，ズッキーニおよびピーマンのトンネル早熟栽培において，農薬および化学肥料を5割以下に削減した特別栽培で慣行栽培とほぼ同程度の収量が得られる。ラッカセイについては，更に検討が必要である。

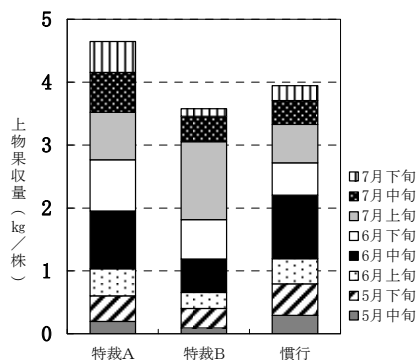


図1 ブッキーニの旬別上物果収量

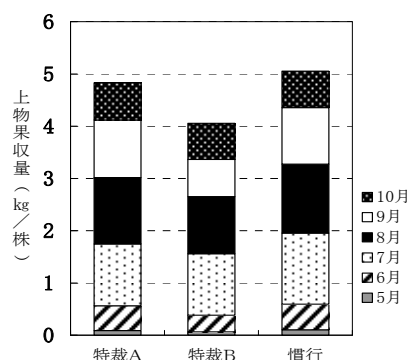


図2 ビーマンの旬別上物果収量

表1 ブッキーニの収量および下物果の内訳

栽培方法 ^a	上物果			下物果		下物果の内訳(本/株)					
	本数 (本/株)	重量 (g/株)	平均1果重 (g)	本数 (本/株)	重量 (g/株)	曲り 奇形	腐れ 病虫害	尻細 尻コケ	尻太 カスリ	キズ 着色不良	短形
特栽A	25.5	4645	182	15.2	2391	2.3	2.0	6.9	1.1	1.5	1.0
特栽B	22.0	3579	163	15.1	1665	1.4	2.7	8.3	1.9	0.3	0.7
慣行	24.1	3943	164	14.8	2106	2.1	2.9	6.7	1.0	0.7	1.3

^a 栽培方法 特栽A:節減対象農薬および化学肥料の使用を5割削減, 特栽B:農薬および化学肥料を不使用

表2 ビーマンの収量および下物果の内訳

栽培方法 ^a	上物果			下物果		下物果の内訳(個/株)						
	個数 (個/株)	重量 (g/株)	平均1果重 (g)	個数 (個/株)	重量 (g/株)	変形	短形	腐れ	虫害	尻腐 日焼	キズ チャック	着色
特栽A	156	4830	31.0	53	1376	14.5	2.3	2.2	16.5	5.0	1.9	10.4
特栽B	139	4055	29.1	61	1503	13.9	2.0	0.7	23.8	3.5	2.1	14.5
慣行	168	5053	30.0	56	1477	14.9	2.1	1.4	20.8	5.1	2.4	9.5

^a 栽培方法 特栽A:節減対象農薬および化学肥料の使用を5割削減, 特栽B:農薬および化学肥料を不使用

表3 ラッカセイの収量(1株あたり)

播種日	株立ち	栽培方法 ^a	上莢数 (個)	莢実重 (g)	上実重 (g)	子実重 (g)	剥実歩合 (%)	上実歩合 (%)	上実百粒重 (g)
4月28日	1本立ち	特栽A	40.3	106	64.7	75.2	71.0	86.0	85.9
		特栽B	49.0	118	85.8	88.5	75.0	97.0	92.1
		慣行	53.4	137	98.9	100.9	73.7	98.0	93.8
	2本立ち	特栽A	36.3	92	58.1	66.5	72.3	87.4	87.8
		特栽B	41.9	91	66.4	67.3	74.0	98.6	85.3
		慣行	46.1	111	81.6	82.5	74.4	98.9	93.6
5月19日	1本立ち	特栽A	45.6	117	80.4	85.6	73.2	93.9	101.9
		特栽B	45.2	105	73.1	78.9	75.1	92.7	83.9
		慣行	42.2	96	69.2	70.1	73.0	98.8	87.9
	2本立ち	特栽A	31.2	89	58.2	63.6	71.5	91.4	88.9
		特栽B	39.2	89	63.8	66.0	74.2	96.6	90.7
		慣行	41.5	100	73.6	73.9	73.9	99.5	93.1
6月4日	1本立ち	特栽A	32.6	83	59.2	60.9	73.9	97.1	91.9
		特栽B	37.9	101	72.3	74.0	73.3	97.7	90.6
		慣行	36.3	93	63.7	67.1	72.2	94.8	87.2
	2本立ち	特栽A	33.4	88	59.5	62.5	71.0	95.3	89.6
		特栽B	39.6	92	65.9	67.9	73.8	97.2	86.8
		慣行	44.5	117	85.5	87.1	74.5	98.2	98.8

収穫日:10月30日, 調査日:12月2日

^a 栽培方法 特栽A:節減対象農薬および化学肥料の使用を5割削減, 特栽B:農薬および化学肥料を不使用